

第24回「若手の会」および「若手育成のための合同会合」報告

1. 若手の会 第24回会合

富山大学で開催された第124回春期大会の2日目の昼食時間（2013年5月19日、12:10～13:00）に若手の会を開催しました。参加人数は学生、社会人をあわせて27名でした。今回は、世話人交代に伴い（住友軽金属工業㈱の岩村さんが退任）、新たに世話人になられた三菱アルミニウム㈱の吉野さん、古河スカイ㈱の安藤さんに自己紹介をしていただきました。

吉野さんからは、会社説明と裾野市の餃子の話から、熱交換器の材料研究について発表いただき、最近の大発見である、腐食後のアルミニウム組織中に現れた変なおじさんや三菱マークなど、おもしろいものを見せて頂きました。また、若手は新しいことにおそれず、積極的にいくべきだと、心強い言葉を頂きました。質疑応答では、「宇都宮と裾野で餃子はどちらがおいしいか?」、「富士山の世界遺産について周りは騒いでいるのか?」、「研究に必要な素養は?」などの質問がありました。研究者の素養として大事なものは基礎学力と教えていただき、大変参考になりました。

安藤さんからは、会社説明と趣味のスクーバダイビング、熱交換器材料について、そして今回大会で講演される内容について教えて頂きました。スクーバダイビング中のお会いにおける心理効果（俗に言う、吊り橋効果）の実践結果については大変興味深いものがありました。また、趣味のスクーバダイビングでは、国内外で潜っていることや、ご出身の大学で金属材料に関連した研究室が少ないことなども議論になりました。

お二人の講演の後に今後の若手の会の進め方について、参加者の方にご意見をいただきました。若手育成のための合同会合（合会）については、認知はしていただいているようですが、なかなか都合がつかないようです。皆さんが参加しやすい環境をつくっていく必要を感じました。合会の参加予定者の連絡や、見学会や勉強会と兼ねた合会の設定など、取り組むべき課題は多いと感じました。また、学生の活発な参加とともに、企業の参加者が多い軽金属学会のメリットを生かした、企業の若手技術者や研究者の積極的な勧誘を行っていき

たいと思います。若手の定義は40歳となっていますが、気持ちがあれば若手です。みなさま是非ご参加ください。

最後に、会場や昼食の準備にご尽力いただきました第124回春期大会実行委員の皆様、特に富山大学の皆様、および軽金属学会事務局の皆様はこの場を借り厚く御礼を申し上げます。

2. 若手育成のための合同会合

5月17日の夕方から富山駅前で若手育成のための合同会合を開催しました。幹事の不幸際で、開催告知が直前であったことから、参加人数は12名となってしまいましたが、自己紹介の後はお酒も進み、打ち解けることができました。話題としては、お互いの研究から趣味の話（バイクやテニスなど）で盛り上がりました。富山は魚と日本酒がおいしいためか、翌日を気にせず楽しんでいただけたようです。また、この合会で知り合った学生同士が、学会会場や懇親会会場でも話をしているのを見ると、合会によってできた繋がりを感じました。

以上のように、若手の会では学生のみならず、若手研究者の横のつながりを深める場を提供しております。今後とも皆様のご参加をお待ちしております。

若手の会世話人 名古屋大学 久米裕二（文責）

群馬大学 西田進一

三菱アルミニウム㈱ 吉野路英

古河スカイ㈱ 安藤 誠

追記：今回撮影した写真を、参加者の皆様に公開しております。閲覧を希望される方は、下記若手の会メールアドレスまでメールをお送りください。また、若手の会の活動内容に対してのご要望なども是非お聞かせ下さい。

若手の会メールアドレス：keikinwakate@gmail.com

※メールタイトルに必ず、「若手の会の写真」と記載ください（メールフィルタを設定しております）。



写真 若手の会の様子（左）、合会の様子（右）